

第4回公立大学法人福井県立大学評価委員会 概要

平成20年7月17日(木)

10:00~12:10

県民会館305会議室

(出席者)

吉村委員長、熊澤委員、平泉委員、前川委員、楨村委員

【議 事】

- (1) 業務実績評価方針の確認について
- (2) 平成19年度業務実績および財務諸表について
- (3) 今後の評価の進め方について

◎平成19年度業務実績および財務諸表について、県立大学から説明があり、質疑応答が行われた。

【主な発言要旨】

1 業務実績評価の方針について

- (委員) 中期目標、中期計画の項目はかなり絞り込んだと思うが？
- (事務局) 中期計画全体で92項目あるが、そのうち26項目を重点項目に選定し評価することとなっている。

2 平成19年度業務実績および財務諸表について

- (委員) 資料3の業務実績報告書の中で予算と収支計画があったが、これと損益計算書の関連をご説明願いたい。(業務費の金額に相違)
また、剰余金の88百万円がどういう努力で生じたのかを説明願いたい。

(県立大) 収支計画では減価償却費135百万円が別途抜き出して計上されている。損益計算書では、この減価償却費のうち109百万円分が業務費に含まれている。減価償却費の計上の仕方が違うことによるものをご理解願いたい。

剰余金88百万円の要因であるが、教員8人不補充で88百万、事務局職員の超過勤務削減、客員教授制度の見直しで30百万円で、人件費で118百万円の剰余が出た。このほかに、入学検定料6百万円、入学料6百万円、科研費等の外部資金の獲得で47百万円ほど増えている。また、光熱水費で10百万円近く、情報機器の更新

延長で1千数百万円など計90百万円弱の節減等をしている。

以上のような収入増や支出削減のなかで、一部は、図書館の書架整備や学部の充実に必要な経費として使っている。

(委員) 財務諸表には監査法人の監査報告書はつけないのか。

(県立大) 監事による監査は6月20日に受検しており、特に問題ないとの回答はいただいている。本来のものには監査報告書としてつけている。

(委員) 寄附金債務であるが、3月末までに研究が実施されていないから4月以降に繰り延べているのか。寄附金はもらった時に収入に上げるのが原則ではないのか。

(県立大) 寄附金の大半は奨学寄附金といわれるもので、受託研究等とは違い、単年度で研究を終了しなければならないものではない。翌期に繰り越した49百万円については3月31日現在、研究に着手していないもので寄附金債務として取り扱っている。寄附金の収益化については、使ったときに収益化するもので、この49百万円については通帳の中に残っているもので、大学の収益としてまだ認識していない状況にある。

(委員) 1年でこれだけの業績を上げ、改革が進んでいる。行政サービスコスト30億円でこれだけのことができるのだなと感服している。

次の点について教えていただきたい

- ・学外からのゲストスピーカーの講師料はどうなっているのか？
- ・公開講座にかかる労力がかなりかかっていると思うが、無料でいいのか。
- ・学生の相談件数が激増しているとのことだが、就職支援の他に、どのように生きるか、どのように将来設計するかなどについての教育に取り込まれる予定はないのか。
- ・地域経済研究所の「企画評価協議会」とは何か。
- ・科研費の採択率の全国上位にランクインされたことは特筆すべき成果であるが、研究費が毎年10%減っているとの資料があったが、県としてはこれをそのまま削減を続けるつもりなのか。ある程度基盤的な研究費は必要だと思うが。

(県立大) 研究費については5年ほど前から毎年10%削減されているが、この中期計画期間中は定額でもらうことになっているので、今後は10%削減されることはない。

(事務局) 標準運営費交付金という形でお金を出しているが、これを毎年1%削減することになっている。その中で研究費にどれだけ配分するかは大学の裁量で行うもので、研究費で10%削減するわけではない。

(県立大) 地域経済研究所の「企画評価協議会」については、経済界からの要望に基づいて研究を実施し、最後は達成状況を評価するということで、企画と評価を行う委員会である。

(県立大) キャリアセンターについては、キャリア教育、インターンシップ、就職支援という3つの柱をどう組み合わせて作っていけば学生にとって一番良いかを検討しているが、キャリア教育をどういう形で組み込むかが難しい。

学生からの相談については、新入生のメンタル面での件数の増が著しく、今後の課題と考えている。

(県立大) ゲストスピーカーの謝金については、非常勤講師並みである。

(委員) せっかく良い公開講座をやる時に、テーマによっては商工会議所等の関係団体と共催の形をとり、少し金を出してもらってはどうか。法人化後はそういうこともできるのではないか。

(県立大) そういう意味でのスポンサー探しの前に公開講座の有料化ができないか昨年検討した経緯がある。ただ、料金の徴収コストのことや、地域貢献という視点で実施していることもあり、有料化することはなかなか難しい。

スポンサー探しについては新たな財源確保策として検討してみたいと思う。

(委員) 本当に努力しておられると感じているが、もう少し数値的に実績が出たらいいなという思いがある。健康長寿の研究についてアンケートを実施したとあるが、その内容を聞かせてもらえたらありがたい。研究継続中のためにまだ出せないということであれば、研究の到達点のところの成果でもいいのでお知らせいただければありがたい。

(県立大) 健康長寿特定研究については、平成18年いっぱい、「健康長寿」にはどういう要因がかかわっているのかということについて、長寿県の沖縄県や平均寿命の短い青森県などから先生を呼び話を伺ったりとか、南越前町を中心にフィールドワークを実施し、仮説を立てた。平成19年度に6市町で500人に対して仮説に基づいて調査を実施した。平成20年度には、沖縄や青森、近県の富山、石川においても調査を実施し、そのデータから福井県の特徴を把握し、県立大学の県民双書として報告させていただく予定をしている。

(委員) 今後の実績報告書の記載に当っては、数値がとれる項目については、数値目標を掲げて評価すると判り易いと思う。

また、数値の記載だけではなく、実施したことに対してどういう成果があったのかという観点から明確に記載された方がよい。

また、重点項目のほとんどが達成できたということであるが、次の新たな重点項目を取り出されてさらにスタートされるということでも良いのではないか。

(委員) 説明の中に数値を入れていただきたい。計画にも何%アップなどの数値目標を入れた方がよい。

外部研究費の増加のグラフがあったが、もう少し判り易いプレゼンテーションがほしかった。研究費の内訳、どういうものなのかが判りにくい。

(事務局) 次回の委員会までにわかりやすい資料を作成し、お示しする。

(委員) 県立大学では控えめに評価されているが、よくやっぺいらっしやると思う。ただ、毎年、上昇気分の目標を掲げていると息切れする。これは世間に対する説得の仕方であるから、県立大学がいかによくやっぺているかの説得として一番有効なのは比較すること。国立大学の典型的な例、県立大学、同規模の私立大学を比較すると一目瞭然に判る。そういう努力をされると良いかも。

それから、プランニンググラントを学長のところで出される時に、一種のスーパーバイザーの委員会を学外者も入れて設置されたら良い。

また、県立大学の地域経済研究所が本当のシンクタンク機能を果たしているという一ついい例をおやりになると良い。研究をただ発表しているだけではシンクタンクではない。本当のシンクタンク機能とは福井県の県政上の主要な課題について問題提起をそこで行うもの。問題提起者は研究者であってもいいし、県会議員であってもいいし、産業界の人であってもいい。しかし、県立大学の研究所で大胆な問題提起が行われることが大事。大学は行政とは少し離れたニュートラルな立場にありますから、例えば県の若手行政官のグループが県の中では言えないことを大学に来て問題を提起するというような例を一つ成功させると全国的に注目される。そういうことをおやりになると良いと思う。

先ほど委員からご指摘のあった達成済みの重点取組み項目については、入れ替えることも一つの考え方である。世の中の変化は激しく、中期計画策定時には想定していなかった項目についてもどんどん積極的に取り組んでいくべき。

3 今後の評価の進め方について

(事務局) 重点項目別に各委員が4段階評価および特記事項の記載を行い、その結果を事務局で取りまとめ、次回評価委員会にて評価委員会と

しての評価等を決定したい。

また、中期目標別の全体評価についても各委員において記載いただき、その結果をベースに全体評価の素案をお示ししたい。

(事務局) 次回の委員会は8月下旬を目途に開催させていただきたい。日程については調整の上、後日、お知らせする。